

新型コロナウイルス感染症対応の ワクチン接種にあたっての要請

新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかからないなか、2月17日から国内でもワクチンの接種が始まりました。

「ワクチンを切り札に世の中のムードが変わってほしい」との言葉に象徴されるように、ワクチンが「万能薬」「特効薬」で、接種によってコロナ感染が収束するかのよう論調が、メディア上でも飛び交っています。

しかし、副反応など安全性を疑問視し、不安視する声もあり、共同通信の2月6、7日の電話世論調査では「接種したくない」が27%に上りました。

米ファイザー製のワクチンについては、開発段階の臨床試験で、新型コロナウイルス感染症の発症率を95%抑えるとの結果が出たと報じられていますが、効果がどれだけ持つのか、不明とも言われています。「特例承認」の選定・承認過程の情報公開が求められます。ワクチンの添付文書によると、臨床試験（治験）では接種後、接種部位の痛み（全体の約84%）などの訴えがあったといっています。20万人に1人とはいえ、重大な副反応として、全身性のアレルギー反応「アナフィラキシー」も報告されています。不安は拭いきれません。

そもそもデータ自体が外国でのものであり、日本人のなかでの治験データはありません。外国任せでいいのか、という疑念も残ります

安全性を考慮して、妊婦などへの接種の「努力義務」を課さないとした点は評価できるものの、高齢者や基礎疾患のある人たちの接種を優先するという点には疑問が残ります。また、接種率や接種数を競って、拙速にすすめることのないよう、適切な指導も求められます。

ワクチンを接種するか否かは、あくまでも個人の自由意思によるべきですが、接種しなかったために感染した場合に白眼視されたり、接種によって副反応が出ても自己責任が押しつけられるのでは、との懸念が残ります。

政府・関係機関におかれましては、ワクチンの安全性とリスクの情報をきちんと伝える責任を果たすとともに、副反応などの不測の事態に対しては万全の対応をおこなう姿勢をしっかりと示すことで、誰もが安心して接種できるようにすることを求めます。

2021年2月20日
埼玉県平和委員会